

実践記録

167

シリーズ

南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」～誰もがができる支援の輪～

南魚沼市教育委員会 子ども・若者育成支援センター 社会教育指導員 木村 義隆

◆学校のなかに誰でも気軽に立ち寄れる部屋をつくりました

平成20年6月に南魚沼市家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」は、文部科学省の家庭教育支援委託事業として、六日町小学校内の空き教室を拠点にして活動を開始しました。平成22年には新たに市内3小学校に設置し、現在4校で活動しています。

◆だんぼの部屋の特徴

立ち上げ当初は補助金に100%依存していましたが、一時期補助金が無くなり、さて、これから「だんぼの部屋」をどうして行こうか悩んでいる時に、チーム員から『私たち、お金がなくても活動を続けたいんです。だって本当に良い活動ですから。』と言われ、それだったらお金がなくても出来ることを皆で考えることにしました。“お金がなくても出来るよね！資格がなくても出来るよね！誰もが出来る支援の輪！”まさに、依存から自立へのスタートとなりました。



「だんぼの部屋」を訪れる、いわゆる非支援者が支援者になっていったり（循環型・大人の居場所）、チーム員同士で支え合ったり、お互いの気持ちや大事にする関係が、活動が続いているエンパワーメントだと思います。

また、チーム員の家族の子どもたちが中学校の部活仲間や高校の友達を誘って、もの作り教室・料理教室の講師や絵本の読み聞かせをしてくれることも一つの特徴です。子どもたちにとっては、私たち大人よりもお兄さんお姉さんの存在の方がよっぽど大きいようです。

チーム員は肩書きのある人もいますが、だんぼの部屋ではおせっかいなおばちゃん・子育て先輩、カッコ良いお兄さんやお姉さんとして楽しみながら活動を続けています。専門家がないことで活動内容に限界があるかもしれませんが、逆に支援の輪を広げるためには“敷居を低く・間口は広く”することが大切です。

チーム員は肩書きのある人もいますが、だんぼの部屋ではおせっかいなおばちゃん・子育て先輩、カッコ良いお兄さんやお姉さんとして楽しみながら活動を続けています。専門家がないことで活動内容に限界があるかもしれませんが、逆に支援の輪を広げるためには“敷居を低く・間口は広く”することが大切です。

◆だんぼの部屋の取り組み

○しゃべり場サロン「だんぼの部屋」

子どもから保護者、先生、地域の人、誰もが気軽に立ち寄れる場所です。また、学校の玄関には「だんぼの部屋」専用チャイムを設け、保護者が訪れやすい環境作りも行っています。笑顔で帰ってもらえるのが一番の喜びですが、部屋を訪れる保護者との関わりだけでなく、子どもたちを通して家庭へのアウトリーチへ繋がるなど訪れる人のおしゃべりやつぶやきの中から活動するための沢山のヒントをいただいています。

○だんぼ学習会

活動しているチーム員の勉強の場です。誰もが出来る支援の輪をキャッチフレーズにしていますが、活動を続けるにあたって自分たちの熱意や思い込みだけではきちんとした対応ができないことを実感しました。そこで、問題を抱える子どもたちや孤立しがちな家族への対応などをテーマに学んでい

ます。

○親子もの作り教室、親子で料理教室

親子で一緒に参加するのが原則です。もの作りや料理を親子で一緒にやることで家族の会話が弾んだり、学校の和室や調理室を活用することで、普段学校から遠ざかっている保護者と学校とのパイプ役となるような取り組みを行っています。子どもも保護者も学校から遠ざげないことが大切です。また、中高生スタッフがお手伝いに加わるなど、人との関わりを持てる場であることを大切にしています。

○入学前保護者交流会 ～はじめましてこんにちは～

初めての学校生活、まずは大人同士が仲良く。入学前保護者学習会や半日入学の際に、保護者同士の顔合わせ「はじめましてこんにちは」から始まり、みんなでリングの皮むきゲーム、人間知恵の輪、校長先生や教頭先生からの感動の読み聞かせなど、保護者の不安を取り除くために保護者同士そして学校との関係作りのお手伝いも行っています。

○メッセージカードの配布

がんばっている子どもたちに大人からのラブレター。新一年生親子がコミュニケーションを深めることを目的に、親から子どもへ送るメッセージの配布運動をおこなっています。

○図書ボランティア養成講座

家庭教育支援チーム単独での活動には限界があり、サポートしてくれる存在が不可欠です。そこで学校支援ボランティアに関心のある方を対象に、図書ボランティアの養成に力を入れています。絵本の読み聞かせの練習は勿論、本の修繕、リサイクルバッグづくりなど必要なスキルを学びます。他にも、昼休みには図書室のお留守番や整理整頓などやることはまだまだ一杯あります。

○だんぼ通信(月1回発行)

啓発活動の一環として、4小学校の全保護者の他にも、地域の小中学校・幼稚園・保育園に一部配布しています。だんぼ通信は活動紹介にとどまらず、子どもたちへのメッセージからお父さんのつぶやきコーナーまであります。また、自前の「だんぼの部屋」リーフレットや文科省発行のブックレット(「だんぼの部屋」掲載)も必要に応じて配布しています。

◆成果

みんなが安心してつぶやける場所ができ、みんなの力を発揮する場所ができ、親子で共同作業する楽しさを知り、チーム員は役に立つ自分を発見できました。それと、学校内に「だんぼの部屋」があることから、先生が活動を目の当たりにし学校との信頼関係が築かれたことで相乗効果が生まれています。

行政も「地域人材を活用する場」と考えるのではなく「地域人材が活動する場」とすることで、地域人材に主体性を持たせ、地域人材自らが教育力を高め、最も効率的な活動が展開できるという発想の転換が必要と考えます。

